

2023年7月4日

## 第101回定時総代会議事録

富国生命保険相互会社

# 第 101 回定時総代会議事録

富国生命保険相互会社

2023 年 7 月 4 日（火曜日）午前 10 時 00 分、東京都千代田区内幸町二丁目 2 番 2 号、富国生命本社 28 階会議室に於て、全取締役 11 名（米山好映、櫻井祐記、林俊勝、渡部毅彦、北村康幸、柳正憲、佐藤広、黒田啓一、鳥居直之、砂本直樹、近藤健）及び全監査役 5 名（根津嘉澄、高橋恭平、大谷邦夫、中尾真司、重松秀明）が出席し、第 101 回定時総代会を開催した。

- ・総代数 118 名（定数 120 名）
- ・出席総代数 117 名（うち、委任状による出席 11 名）

## 1. 開会

午前 10 時 00 分、定款第 20 条の定めにより、代表取締役社長米山好映が議長となり、開会を宣した。

次に、議長は、本日の出席総代数が、委任状を含め、本総代会の議案の決議に必要な定足数を充足しており、適法に成立した旨を述べた。次いで、本日上程される議案は定款第 21 条に定める普通決議による事項であることを述べた。

## 2. 議事の経過の要領及びその結果

### 1) 監査報告

議長は、まず、中尾常勤監査役に監査報告を求めた。同監査役は、監査の方法、内容及び結果は、監査役会の監査報告書謄本記載のとおりであること、また、本総代会に提出の全ての議案及び書類は、法令・定款に適合しており、指摘すべき事項はない旨を述べた。

## 2) 報告事項の報告

議長は、2022 年度事業報告の件、2022 年度貸借対照表、損益計算書及び基金等変動計算書報告の件、相互会社制度運営報告の件について、スライドを用い、ナレーションにて報告を行う旨を述べた。

### ア. 2022 年度事業報告の件

2022 年度事業報告について、事業の概況、業績状況を報告した。

### イ. 2022 年度貸借対照表、損益計算書及び基金等変動計算書報告の件

2022 年度貸借対照表、損益計算書及び基金等変動計算書報告について、貸借対照表、損益計算書を中心に主な項目について報告した。

### ウ. 相互会社制度運営報告の件

相互会社の仕組みと総代の定数、総代の選出方法、2022 年度ご契約者懇談会開催状況などについて報告した。

この後、議長は 2022 年度事業報告の中の、会社が対処すべき課題について報告した。

## 3) 質疑

上記各報告事項の報告後、総代から事前に寄せられた以下の質問・意見に対し、議長及び議長からの指名を受けた担当役員より回答を行った。

○個人保険のアフターサービス活動について、お客さまアドバイザーに対する教育・指導はどのようにしているのか。

○優秀なお客さまアドバイザーを採用し、長く勤めてもらうことが重要である  
と考えるが、どのような対応をとっているのか。

○お客さまアドバイザーから新商品や保障の見直しの提案がほしいという声がある。契約者に寄り添った活動をお願いしたい。

○アンケート調査では、ネット型保険会社の顧客満足度の評価が高いようだが、これに対してどのような分析、検討がなされているのか。

- 富国生命はなぜ「株式会社」ではなく「相互会社」なのか。
- 100周年プロジェクト『THE MUTUAL』の活動に対し、お客さまや社内での反響はどうであったか。またこの活動により、職員の満足度やモチベーションは向上したか。
- 女性役員の比率向上について、今後どのようにお考えか。保険事業において、女性目線は非常に重要であると思う。
- 変化の激しい時代のリーダーシップについて、経営と執行の分離、経営層の若返りについてどのようにお考えか。
- SDGsの17の目標に対し、富国生命はどのような取組みを行っているのか。
- 全国各支社レベルでの持続可能な開発目標（SDGs）への取組みに尽力していただきたい。
- 日本はゼロ金利、欧米ではインフレ対応で政策金利引き上げ、為替は円安が進んでいる。こうした環境では、資金が外国に流れるのではないか。また、保険会社の資産運用に与える影響はどのようなことが考えられるか。
- 新聞広告やCM放送などで一定の認知度向上につながっているが、若年層の生命保険離れは加速していると考えます。保険の必要性を訴えるとともに、引き続き新規加入者獲得のための施策を継続していただきたい。
- 「お客さま基点」「ご契約者本位」は素晴らしいお考えだが、ご契約者のみならず新規のお客さま、特にZ世代に対してどのようなアプローチをしているのか。
- ワイド・プロテクトのCMは富国生命の認知度を上げ、非常に良かったと思うが、続編はあるのか。“寄り添う”を前面に出した御社らしい内容に誇らしく感じた。
- 健康増進を実践することで、特典が受けられるような保険商品を検討いただ

きたい。

- 少子高齢化対策は待ったなしと考える。子育て世代より、学資保険の保険料をもっと安くしてほしいという意見が聞かれた。子育て世代への厚遇を検討することが将来の契約者確保にもつながると考える。
- 現在の日本における最大の課題は、少子化問題であり政府においても子育て世代の負担軽減策が種々検討されているが、例えば子供の扶養数に応じて保険料を割引する商品を開発し、社会にPR するなどの検討をされてはどうか。
- 現役世代の保障の充実に力を入れていただきたい。
- 高齢者向けの商品の開発に力を入れていただきたい。
- 高齢化が進んでおり長く安心して契約継続できる商品拡充の要望がある。
- 自宅に郵送される書類等は、CO2削減の観点からもペーパーレス化、デジタル化を推進していただきたい。
- 商品知識を深め良い商品を色々なターゲット層に広めていきたいと考えているため、代理店向けの研修などをもっと行っていただきたい。

回答後、議長は、その他に総代から期待やお褒めの言葉などを頂戴していることについて述べた。

さらに議長は、出席総代に対して質問・意見などを求めたところ、以下の質問・意見が寄せられ、議長及び議長からの指名を受けた担当役員より回答を行った。

- レジリエンスの強化について、どのような施策を考えているのか。
- 職員のメンタルヘルスについては、どのように取り組んでいるのか。

#### 4) 決議事項の審議・採決

続いて、議長は、決議事項である第1号から第5号までの各議案について、それぞれ説明し採決を行う方法で審議を進めたい旨を述べ、出席総代に異議を問うたが、満場異議はなかった。

第1号議案 2022年度剰余金処分案承認の件

議長は、2022年度剰余金処分案、社員配当比率について説明した。

その後、議長は、本議案について異議を問い、採決したところ、満場異議なく原案どおり承認可決された。

#### 第2号議案 社員配当準備金分配の件

議長は、配当のあらまし、社員配当準備金分配について説明した。

その後、議長は、本議案について異議を問い、採決したところ、満場異議なく原案どおり承認可決された。

#### 第3号議案 評議員9名選任の件

議長は、現評議員9名全員が本総代会終結の時をもって任期満了となることにもない、評議員9名を選任したい旨を述べた。

議長は、評議員として、泉谷直木、井上和幸、北村雅良、小林哲也、中林真理子、西成活裕、花崎正晴、久塚智明、前野隆司の9名を選任したい旨、及びその推薦理由を述べた。

その後、議長は、本議案について異議を問い、採決したところ、満場異議なく原案どおり承認可決された。

#### 第4号議案 取締役12名選任の件

議長は、現取締役11名全員が本総代会終結の時をもって任期満了となることにもない、米山好映、櫻井祐記、林俊勝、渡部毅彦、北村康幸、柳正憲、佐藤広、小巻亜矢、鳥居直之、砂本直樹、近藤健、吉田勇治の12名を、取締役として選任したい旨を述べた。なお、柳正憲、佐藤広及び小巻亜矢の3名については社外取締役の候補者である旨を述べた。

その後、議長は、本議案について異議を問い、採決したところ、満場異議なく原案通り承認可決された。選任された12名は全員就任を承諾した。

#### 第5号議案 監査役1名選任の件

議長は、監査役 中尾真司が本総代会終結の時をもって任期満了となることにと

もない、黒田啓一を、監査役に選任したい旨を述べた。また、本議案については監査役会の同意を得ていることを述べた。

その後、議長は、本議案について異議を問い、採決したところ、満場異議なく原案どおり承認可決された。選任された同氏は就任を承諾した。

### 3. 閉会

議長は、以上をもって本定時総代会の議案全部を議了した旨を述べ、午前 11 時 54 分に、議長は第 101 回定時総代会の閉会を宣した。

以上の議事の経過及び決議を明確にするため、この議事録を作成した。

2023 年 7 月 4 日

富国生命保険相互会社

第 101 回定時総代会

議事録の作成に係る職務を行った取締役の氏名

代表取締役社長 米 山 好 映

以上